

昭和八年度和歌山縣工業試驗場業務報告

和歌山縣工業試驗場

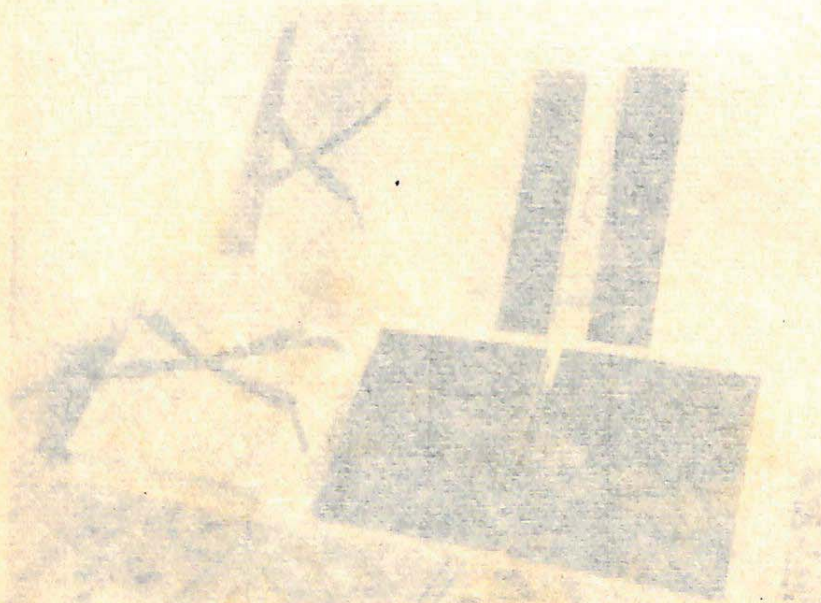
〔代謄寫〕

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

獻

上

一、
 二、
 三、
 四、
 五、

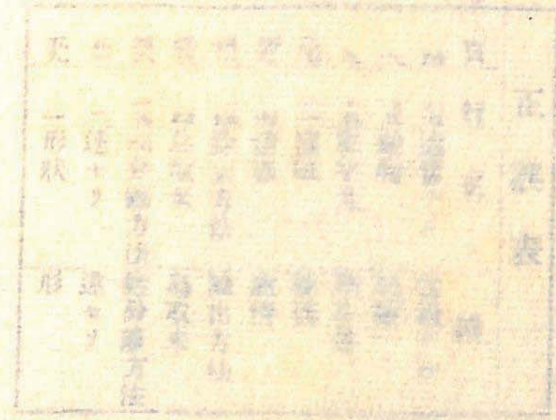
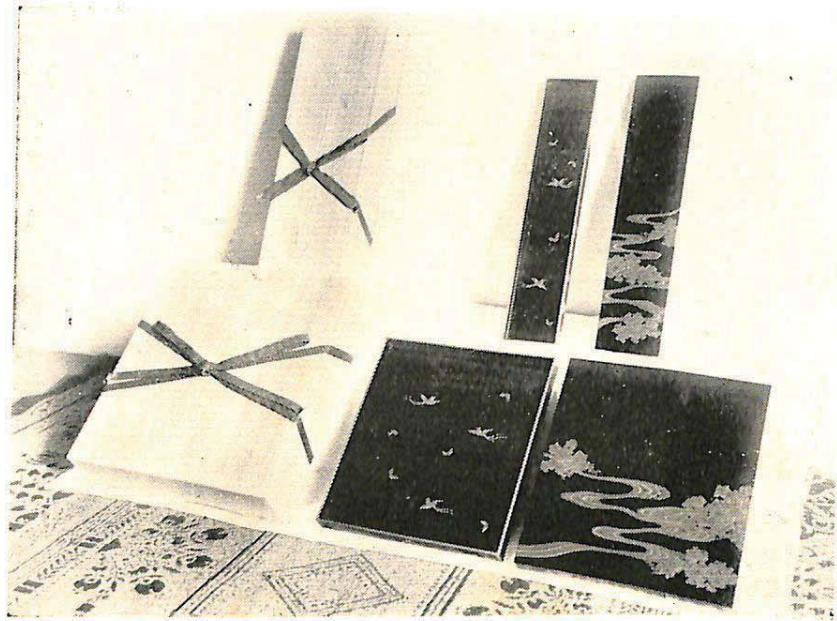


正誤表

頁	行	正	誤
四	一七	適當ナル	當適ナル
九	一五	鈍變	純變
九	一五	堅牢度	堅牢座
七	二	機織	織機
四	七	清酒	酒清
四	一四	除去方法	除出方法
四	四	鳥取米	鳥取米
四	一五	油分離方法	麴分離方法
五	二	達セリ	達セリ
五	一	形状	形

秩父宮雍仁親王殿下
 閑院宮載仁親王殿下
 伏見宮博恭王殿下
 伏見宮博義王殿下
 賀陽宮恒憲王殿下
 久邇宮朝融王殿下
 梨本宮守正王殿下
 朝香宮鳩彦王殿下
 李王殿下

上
 色紙 短冊
 献上冊



昭和八年度業務報告目次

第一章 染色部

縣下染織業ノ概況

染色部業務ノ概要

一、自發試驗

(一) 天然絹膠狀液應用捺染試驗

(二) 建築々料ニ依ル人絹布着色援染法ノ基礎試驗

(三) 綿ネル仕上改善試驗

(四) 「シール」捺染及仕上ニ關スル試驗

二、依頼試驗

三、質疑應答

一

三

三

四

六

一一

一二

一三

一四

(一)

- 四、實地指導
- 五、調 査
- 六、講 習及講 話
- 七、參考品展示及標本配布
- 八、其 他
- 九、來 場 者

(一)
一五
一五
一六
一六
一七
一七

第二章 機 織 部

機 織 部 業 務 ノ 概 要

一九

一、自發試驗

二〇

(一) 目 的

二〇

經絲ニ人絹絲緯絲ニ綿絲ヲ應用シ輸出向毛葛及ビ捺染加工
ポプリン生地ヲ綿織機ニテ製織セントス

二二

(二) 目 的

經絲ニ人造絹絲緯絲ニ綿絲ヨリ成ルドビー機應用ニテ各種
ノ模様ノポプリン「毛葛」輸出向生地ヲ綿織機ニテ製織セ
ントス

二二

(三) 目 的

綿絲ト「シミレン絲」ノ應用ニナル特殊ネル生地ヲ得ムトス

二二

(四) 目 的

(三)

新規購入ノ撚糸機ノ調整ノタメ子供服地用其他織物ニ應用
スベキ變リ撚糸ヲ作製セントス

- 二、依頼 試驗 一三三
- 三、依頼見本製織試驗 二二四
- 四、質疑 應答 二二五
- 五、實地 指導 二二六
- 六、調 査 二二七
- 七、特別工場設計 二二八
- 八、照 會 二二八
- 九、標本 配布 三〇〇
- 一〇、來 場 者 三〇〇

(四)

第三章 釀 造 部

縣 下 釀 造 業 ノ 概 況

- 一、自發 試驗 三三一
- (一) 和歌山市内優良酒造用水ノ探索 三三三
- (二) 堅型各種精米機使用精白米ノ浸漬蒸餾試驗 三三三
- (三) 木綿張酒造米蒸餾法試驗 三三四
- (四) 等低溫麴ト在來麴トノ比較 三三五
- (五) 元孫酛ノ初溫急降法ト在來法トノ比較研究 三三五
- (六) 半田式糯米四段仕込試驗 三三六
- (七) 清酒熟化速進試驗 三三八
- (八) 圍桶塗料比較試驗 三三八

(五)

(九)	サプロゲン除去ト清酒ノ火持トノ關係研究	三八
(十)	醬油ノ折鑑評成績ト感能審査成績ノ比較研究	三八
二、	依頼試驗	三九
三、	質疑應答	四一
四、	出張	四七
五、	調査	四八
六、	講習講話研究会並ニ座談會	四八
七、	品評會	四九
八、	視察	五〇
九、	酒清酵母配布高	五一
十、	記録配布	五一
十一、	來場者	五一

第四章 漆器部

一、	縣下漆器業ノ概況	五三
二、	自發試驗研究	五四

(一)	漆器面ニ於ケル連續模様ノ簡易ナル表現方法	五四
(二)	浮出模様漆器木地ノ塗裝研究	五四
(三)	紀州彫ノ創作研究	五五
(四)	塗立面ニ簡易ナル拔模様ヲ現出セシムル方法ニ就キ	五五
(五)	塗立ト同時ニ種々ナル模様ヲ表現セシムル方法ニ就キ	五五
(六)	摸擬金地法ノ研究	五五
(七)	漆器木地ノ曲縁研究	五六
(八)	ブナ材漆器木地ノ適否試驗	五六

(九)	編縁漆器ノ研究	五六
(十)	本縣産青貝粉ノ應用塗飾ニ就テ	五六
(十一)	輸出漆器ノ見本試作	五七
(十二)	内地向漆器ノ試作	六一
	三、特別製作ニ關スル事項	六二
	四、工藝指導ニ關スル事項	六三
	五、依頼試驗	六七
	六、質疑應答	六七
	七、實地指導	六八
	八、調査	六九
	九、出品並ニ展示其他	七〇
	十、機械器具使用許可	七一
	十一、來場	七一

第五章 庶務部

	一、文書收發件數	七三
	二、職員出張回数並ニ日數	七三
	三、印刷物ノ配布	七四
	四、來場者	七四
	五、現在職員	七四

縣 下 ノ 染 織 業 概 要

昭和八年中ニ於ケル本縣染織業界ノ概況ヲ記セバ内地向品ハ打續ク不況ニ幾分回復ノ徵候ヲ見タリト雖モ尙一抹ノ不安ヲ存シツ、推移セルタメ綿ネル、綿モスシール類肩掛等ハ賣行不良シテ著シキ減産ヲ示セリ、僅カニ綿英ネル、小服地、縞ボブリン、捺染人絹等ガ稍順調ナル經過ヲ辿リタルニ過ギズ、之レニ反シ輸出品ハ聯盟問題或ハ米國金融恐慌等ノ打撃ヲ蒙リ且ツ日ヲ遂ツテ高マリ行ク各國關稅引キ上ゲ或ハ輸入制限、輸入割當制度等幾多ノ障壁ニ阻マレツ、モ、更紗、捺染仁斯、綿モス、無地染綿布、綿ネル等ハ爲赫安ノ波ト低廉ニシテ優秀品ナルヲ以テ對外製品ヲ驅逐シ世界ノ各市場ニ迎ヘラレ販路ヲ著シク擴張シタルタメニ豫想外ノ好況ヲ持續スルヲ得タリ、特種品タルシール類モ印度、南洋、滿洲方面ニ益々輸出セラレ國營検査ノ實施ニヨリ其品質向上ト相持ツテ益々有望ナリ

之レヲ要スルニ本年ノ縣下染織業界ハ内地向ハ概シテ不況ナリシガ輸出品ハ前年ニ引キ續キ好成绩ヲ收タル爲ニ染織業界ハ總括的ニハ著シク好況裡ニ經過セリ

而シテ輸出捺染品中南洋方面ノモノハ漸次堅牢染色ヲ要求セラル、モノ多ク次第ニ高級品ニ轉換セントスル傾向ヲ示シ又縞ボブリン、小服地等ニ於テモ益々技術進歩セルモノヲ認ムルニ至リシハ眞ニ欣幸トスルトコロナリ。

左ニ各組合ノ生産統計ニヨル本縣織物産額ヲ示セバ次ノ如シ

染色部

	内地		輸出		計		備考
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	
綿織物類	四三六、五八反	三、〇九二、四九七圓一	八七、七三九反	六、四四〇、七六七圓二、三六、三七反	九、五三三、二六四圓		
綿ネル類	一、四九九、〇四反	二四、三二一、〇三九	一、三三四、三〇反	二、五五四、六二二	二、七七三、四四反	三六、八三五、六四一	
捺染綿布類	三、三九五、五四反	一、六八、二四六	二〇九、〇七九反	八、三三四、〇五	二四九三、六〇三反	九、九四二、二九九	加工賃
捺染人絹布類	二九、〇七反	一三〇、九〇二	一三、九四三反	一〇、四五七	二三三、〇三〇反	一四一、三九五	加工賃
捺染モスリン	二四三、四九本	一、九五七、五五六	—	—	二四二、四九本	一、九五七、五五六	加工賃
無地染綿布類	六九、九二反	六三、七五七	一、五五、六四二反	九三、六三二	一、五五、五五三反	九八六、三七九	加工賃
シール織物	三五、五三碼 四七、一九五打	一、一〇一、五六四	二九二、二五〇碼	四七、〇四八	六四三、七五三碼 四七、一九五打	一、六五六、六三二	
毛織肩掛	三五、二五打	七四、三〇〇	—	—	三五、二五打	七四、三〇〇	
其他	一八、二五五點	二〇九、七三二	—	—	一八、二五五點	二〇九、七三二	
計	—	一三三、三〇九、五七三	—	一三六、六五九、五五九	—	一五、九六九、一三二	

第一章 染色部

本年度業務ノ概要ヲ述ブレバ

先ヅ自發試驗ニ於テハ天然絹膠狀液應用捺染(人絹上ニ紋風ノ模様ヲ現ハス方法)竝ニ人絹糸布ノ艶消試驗ハ約二ケ年ノ日子ヲ費シテ漸ク完了ヲ告ゲ工場作業ニ移サレテ既ニ實際ノ製品ヲ市場ニ送リツ、アリ

研究項目ノ一タル人絹布ノ建築々料ニ依ル著色拔染試驗ニ於テ先ヅ現在一般ニ使用サレツ、アル主ナル染料ヲ採リ其ノ個々ニツイテ使用サル、各種藥品ノ適量ヲ試驗シ特ニ其ノ發色法ハ木綿ノ場合トハ大イニ其ノ趣ヲ異ニスル点アルヲ以テ是ニ就キ詳細ナル試驗ヲ行ヒ其ノ完了ヲ見タリ九年度早々業者ニ發表參考ニ資スル豫定ナリ

次ニ和歌山トシテノ重大問題タル綿ネル仕上改善試驗ハ我ガ和歌山ノ綿ネルハ近年稍モスレバ不振ニ赴カントスル憂フ可キ傾向アルニ鑑ミ着手シタルモノニシテ先ヅ化學的處理ニ依テ其ノ風相ノ改善ヲ圖ラントスルモノデアアルガ何分安價ヲ生命トスル如キ品物ナルタメ工費ノ点ニ於テ大ナル制限ヲ受ケ困難ナル問題ナルモ尙ホ引キ續キ研究中ナリ。

次ニ高野口方面ノ特産タル「シール」ノ捺染試驗ニモ著手シタルモ完全ヲ期スルタメニハ是ニ適スル特種ナル機械ヲ必要トスルヲ以テ其ノ機ノ購入サル、ヲ待チ引續キ努力研究ノ豫定ナリ。

依頼試驗、質疑應答、調査、實地指導等ハ逐年其ノ件數ヲ増加シ本年度ハ前年度ニ比較シテ更ニ其ノ件數ノ増加ヲ見タリ。

來訪者ノ如キモ著シク其ノ數ヲ増加セリ。

一、自發試驗

〔一〕天然絹膠狀液應用捺染試驗

天然絹ノ膠狀液ヲ人絹布等ノ如キ光澤強キ織物上ニ印捺シテ其ノ部分ノ光澤ヲ消シ光澤ノ差ニ依リテ紋織風ノ模様ヲ現ハス新規ナル方法ニシテ類似ノ結果ヲ目的トスル他ノ方法ニ比較シテ種々ナル点ニ於テ特徴ヲ有ス、次ニ其ノ方法ノ概略ヲ報告ス

一、絹屑ノ分散

絹ノ分散方法トシテ現在實用的ナルモノハ水酸化銅ノアンモニア溶液ヲ用フル方法ト特種ナル中性鹽類ヲ使用スル方法トノ二法ニ大別スルコトヲ得、本試験ニ於テハ後者ノ方法ニヨリ硝酸カルシウムト硫酸曹達トノ混合溶液ヲ使用セリ、即チ硝酸カルシウムノミヲ以テセバ最モ經濟的ナルモ是ハ其ノ分散量小ニシテ最後ニ於テ所要濃度ヲ得難ク硫酸曹達ノミヲ以テセバ分散量ハ大ナルモ捺染用トシテハ安定度ニ於テ劣ルト同時ニ價格亦不廉ナルノ缺点アリ兩者ヲ混合シテ使用セバ夫々ノ缺点ヲ相補ヒテ其ノ結果佳良ナリ。

分散ニ供セントスル絹屑ハ充分精練ヲ行ヒ完全ニ「セリシン」ヲ除去シ置クコトヲ要ス是ヲ克ク乾燥セシメタル後硝酸カルシウム及ビ硫酸曹達ノ飽和溶液ヲ容量上六ニ四ノ割合ニ混合シ該混合液一〇〇容ニ對シ精練絹屑三〇―三五分(重量上)ヲ入レ液温七〇―八〇度ニ於テ操作シ充分ニ分散モシム

二、透拆

分散シタル液ハ其ノ儘ニテハ捺染ニ供シ難シ是ヲ透拆ナル工程ニ掛ケテ使用シタル藥品ノ大部分ヲ除去スルヲ要ス即チ銅製金網ヲ以テ船ノ如キ形ヲ作り其ノ上ニ當適ナル透拆膜ヲ張り是ヲ淺キ木製槽中ニ浮ベ此中ニ「ゾル」ヲ入レ時々水槽中ノ水ヲ交換シツ、透拆ヲ行フ透拆ノ程度トシテハ「ゾル」中ノ前記藥品ノ含有量ハ兩者ヲ合シテ六―七%位ノ程度ニ至ルコトヲ要ス、余リニ藥品ノ含有量多キ時ハ次ノ再生工程ニ於テ再生速度遅ク其ノタメニ種々ナル障礙ヲ惹起ス可ク、亦余リニ寡少ナル時ハ「ゾル」ハタメニ不安定トナリテ捺染シ難ク同時ニ種々ナル缺点ヲ生ズル恐アリ、

三、捺染

前記ノ如クニシテ透拆ヲ終リタル後捺染ニ供ス

捺染糊ハ

天然絹膠狀液

七八〇―七五〇

アンモニア水

一〇

テレピン油

五

硫酸バリウム泥狀

三〇

水酸化バリウム結晶

三

ロンガリツトC

二

可溶性澱粉糊

一七〇―一八〇

合計

一、〇〇〇

是ヲ以テ普通ノ如ク捺染ヲ行フ

四、再生

該工程ニ依リ分散セラレテ溶液狀態トナリタル絹液ヨリ元ノ絹ヲ凝固再生セシム

該目的ニ對シテ有効ナル鹽類ハ種々ニアレドモ就中硫酸鹽類其ノ凝固能最大トセラル本試験ニ於テハ硫酸鹽類中最モ經濟的ナル芒硝ヲ使用セリ

即チ芒硝ノボーメー十八度内外ノ溶液ヲ作り是ヲ四十五度内外ノ温液トナシ捺染布ヲ該溶液中ニ「ジムガ」ヲ用ヒテ二回通入ス、通入後卷キ取りテ放置シ最初ヨリ約二時間以上經過シタル後水洗ニ移ス、水洗ハ微温湯ヲ用ヒテ二回輕ク行ヒ若干芒硝分ヲ殘存セシムル様ニシ卷キ取りテ一夜間放置ス

五、染色 其他

前述ノ如クシテ一夜間放置シタル後白模様ノ儘ノモノハ稀薄ナル修酸ノ温溶液中ニ通入シテ鐵氣ニ依ル汚染ヲ除キ水洗シテ仕上ゲス

染色ヲ行フモノハ其儘今一回水洗シタル後捺染部丈ケノ染色ヲ行ハントスルニハ酸性染料ヲ用ヒ全体ヲ染色スル場合ニハ直接染料ヲ用フ

〔二〕 建染々料ニヨル人絹布著色捺染法ノ基礎試驗

人絹布ニ建染々料ヲ用ヒ著色捺染ヲ行ヒタルモノハ海外ヨリ購入セル染色物又ハ標本等ニシバシバ見受ケラレ、人絹ト雖モヤガテハ堅牢捺染ノ要求セラル、モノナルベキヲ豫期シ左記ノ如ク詳細ナル基礎的試驗ヲ行ヒテ指導上ノ參考トナサン、次ニ大畧ヲ報告ス

(1) 供試染料名

地色用染料―直接染料及其顯色處理ヲ行フ

捺染用染料―建染染料七種

(2) 試驗事項

(イ) 捺染處法ニ關スル試驗 糊料、アルカリ量及其種類其他助劑ニツキテ試驗ヲ行フ

(ロ) 發色法ニ關スル試驗 人絹布ニ建染染料ヲ以テ着色捺染ヲ行ヒタル場合蒸熱後ニ於ケル發色法

ハ最モ難点ナルモノニシテ其ノ原因ハ人絹布ニ吸收セラレタル建染染料ノアルカリ性還元物タルリーユコ化合物ハ綿布ト比スレバ發色特ニ遅ク蒸熱後長時間放置スルモ還元色ヲ保チ殆ンド復色セザルモノアリ又發色後ニ於テ地染堅牢度等ヨリノ關係上高温ノ石鹼浴處理ヲ施シ得ザルモノ等ニ於テハ發色法ヲ適當ニ行フニ非ラザルバ建染染料固有ノ鮮明高雅ナル色相ヲ得ラレズ依ツテ次記五ツノ發色法ニツキテ比較試驗ヲ行フ

發色法第一法 濃硫酸 三瓦 重クロム酸曹達 五瓦 芒硝 五〇瓦、溫度四〇度

第二浴以下 水洗、湯洗、水洗、乾燥

發色法第二法 第一浴 芒硝 五〇瓦、溫度七〇度

第二浴 芒硝 五〇瓦、溫度七〇度

第三浴 重クロム酸曹達三瓦、溫度四〇度

第四浴以下 水洗、湯洗、水洗、乾燥

發色法第三法 第一浴 芒硝五〇瓦、溫度七〇度

第二浴 芒硝五〇瓦、溫度七〇度

第三浴 重クロム酸曹達 三瓦 硫酸 三瓦、溫度三〇度

發色法第四法 第一浴 芒硝 五〇瓦、溫度七〇度

第二浴 芒硝 五〇瓦、溫度七〇度

第三浴 硫酸 五瓦、溫度三〇度

第四浴以下 水洗、湯洗、水洗、乾燥

發色法第五法

第一浴 芒硝 五〇瓦、溫度七〇度

第二浴 芒硝 五〇瓦、溫度七〇度

第二浴通入後輕ク絞リ暫時空氣中ニテ酸化殆ンド發色後第三浴ニ通入

第三浴 重クロム酸加里 三瓦 硫酸 三瓦、溫度三〇度

第四浴 水洗、湯洗、水洗、乾燥

以上各分量ハ水一立中ノ含量ヲ示ス然シテ各浴ハ水洗機ニ於ケル各浴槽ニテ實施スル場合ヲ考慮ニ入レテ試驗ヲ行ヒタルモノナリ

(ハ)

ドクターカブリ防止ニ關スル試驗 鹽素酸曹達、セロダイト等ヲ用ヒ其ノ稀薄溶液ヲバツドシ乾燥後捺染ヲ行ヒテカブリ防止ニ關スル比較試驗ヲ行フ

(3) 試驗成績

(イ)

捺染處法ニ關スル試驗

糊料ニツキテ——糊料ノ試驗成績ニツキテハ大体前回報告セル直接捺染法ト同様ナルニヨリ省畧ス只ダ着色拔染ニ於テハ模様際ニ白色リムヲ生ゼザル様ニ糊劑並ニ濃度ニツキテ注意ヲ拂フヘキハ論ヲマタズ

アルカリニツキテ——アルカリトシテハ苛性曹達又ハ苛性曹達ト炭酸鹽トノ混合ヲ最良トシ炭酸鹽ノミヲ多量ニ用フルトキハ兎角模様際不明確トナリ結果面白カラズ

ロンガリットニツキテ——ロンガリットノ過量ハ發色溶ニテ於テ特ニ影響スルトコロ大ナルモノアレバ可及的適量ヲ求メ使用スベク尙蒸熱時間並ニ蒸熱中ノ分解ノ程度ニツキテモ注意ヲ拂フベキデアル

(ロ)

發色法ニ關スル試驗

人絹布ニ建築染料ヲ用ヒテ捺染セル場合蒸熱後ニ於ケル發色法ハ最モ注意ヲ要スル点ニシテ、濃

度及色相ノ明暗ハ發色法ニ密接ナル關係アリ其ノ原因ハ人絹ニ吸收セラレタル建築染料ノアルカリ性還元物タルリユ—コ化合物ハ發色特ニ遅ク、蒸熱後長時間空氣中ニ放置スルモ尙還元色ヲ保チ發色セザルニヨル

バツト染料ノ發色法トシテハアルカリ類ヲ中和スルノミニヨル消極的發色法トアルカリ中和ト酸化劑ニヨル酸性酸化溶ヲ用フル積極的發色法ノ何レカニヨルモノナルガ之等ノ良否ハ個々染料ノ還元劑酸化劑ニ對スル性質、並ニログレット使用量ニ大ナル關係ヲ有スルモノ如シロンガリットノ含有最少量ナル捺染糊ヲ用ヒタル場合ノ發色溶ハアルカリ中和ノミニヨル酸性發色溶法概シテ良好ナルモ、ロンガリット多量ナル捺染糊ヲ用ヒタル時ハ、ロンガリット分解生成物タル亞硫酸鹽ガ多量ニ生ズル爲ニ酸性溶ノミニヨル消極的發色法ニ於テハ同時ニ發生スル亞硫酸ノ爲ニリユ—コ化合物ハ更ニ溶解狀態トナリ浴中ニ流出セントスル傾向ヲ示ス爲ニ色合鮮明ナレドモ兎角濃度低下スルモノナリ、而シテ酸性酸化溶ニヨル積極的發色法ニ於テハ概シテ濃色ヲ得ルト雖モ染料ニアリテハ著シク色相ヲ暗色ナラシムルモノアリ。サレドロンガリット多量ニ要スル捺染糊ヲ使用シタル場合ニハ前記ノ如ク酸性溶ノミニテハ濃度著シク低下スルモノナレバ、之ノ点ヲ充分ニ考慮シテ發色溶ヲ定ムベク特ニ酸性ノ強サニ關シテハ充分ナル注意ヲ必要トス

元來酸化溶ニヨリ純變セル色相ハ高溫石鹼處理ニヨリ改良シ得ルト雖モ地染ノ堅牢座ノ關係ヨリシテ高溫石鹼處理ヲ行ヒ得ザル場合ニハ特ニ注意ヲ必要トスルモノナリ。

本試驗ニ於テハ第一法ノ如ク急速ニ酸性酸化溶ニ通ズルモノ及ビ直ニ酸溶ニ通ズル方法何レモ概シテ良成績ヲ得ラレズ第二法以下ニ示セル如ク第一浴第二浴トシテ芒硝溶ヲ用ヒ之レヲヨリ可及的リユ—コ化合物ノ流出ヲ防止シツツアルカリ類及ロンガリット分解生成物ヲ除去シ然後酸溶或ハ酸化溶ニ通ズル法ヲ採用セルハ水洗浴トシテ鹽類ヲ添加セザル場合ヨリハハルカニ濃度良好ナ

ル成績ヲ得ラルルモノナレバ本試験ニ於テハ發色法ノ改良法トシテ一、二浴共芒硝浴ニ通入シ然
ル後適當ナル發色法ヲ採用セリ

尙蒸熱後ニ於テ放置時間ト發色法トノ關係ニツキテモ試験ヲ行ヒタルモ特記スベキ成績ヲ得ラレ
ズ本實驗ニ於テハ使用藥品トシテハ最モ實用的の見地ヨリシテ重クロム酸鹽及硫酸又ハ醋酸等ニツ
キテ試験ヲ行ヒタリ。

(ハ) トクターカブリ防止ニ關スル試験

セロダイト及鹽素酸加里等ノドクターカブリ防止効力ニ關スル基礎的試験トシテ直接染料レノ
ルグリン(カラーインデックス第五九三號)ニ%ヲ用ヒ平人絹ニ染色シ之レニセロダイト及鹽素酸
加里ノ千分ノ一ヨリ千分ノ十二至ル各種濃度ノ溶液ヲ下漬乾燥シロンガリット一%、二%、三%
四%、五%、ヲ含有スル拔染糊ヲ捺染シテ拔染ヲ行ヒ酸化劑使用量トロンガリット消失量トノ關
係ニ付試験ヲ行ヒタリ試験結果ノ一例ヲ示セバ無處理品ハロンガリットCニ%糊ニテ殆ド拔染セラレズ
行ヒ得ルモセロダイト千分ノ十ヲ下漬セルモハロンガリットCニ%糊ニテ殆ド拔染セラレズ
ガリット四、五%糊ヲ用フコトニヨリ白色拔染ヲ得ラル、之ノ一例ニヨレバセロダイト千分ノ十ヲ
下漬セル場合ニハロンガリットCハ二、五%ダケセロダイト中和劑トシテ消失セラレタルヲ知ル
之等ノ實驗的係關ヨリシテセロダイト及鹽素酸加里ニヨルロンガリットノ消失量ヲ大畧試験シタ
ルニ次ノ如シ(勿論布ノ厚薄、下漬液ノ絞リ程度捺染ロール彫刻ノ深サ等ニ大ナル關係アルモノ
ナレドモ)茲ニハ平人絹ヲ用ヒ普通ノ諸條件ノ下ニ試験ヲ行ヒタリ。

セロダイト	一、〇〇〇分ノ二ニテ下漬セルモノハ	ロンガリットC	約〇、五%ヲ消失ス
セロタイト	一、〇〇〇分ノ四ニテ下漬セルモノハ	ロンガリットC	一、〇%ヲ
〃	〃	〃	〃
〃	六	〃	一、五

鹽素酸加里 一〇〇〇分ノ二ニテ下漬セルモノハ

〃	八	〃	二、〇
〃	〃	〃	〃
〃	十	〃	二、五
〃	〃	〃	〃
〃	四	〃	〃
〃	〃	〃	〃
〃	六	〃	ロンガリット消失量一%以下
〃	〃	〃	〃
〃	八	〃	〃
〃	〃	〃	〃
〃	十	〃	ロンガリット消失量約一%
〃	〃	〃	〃

セロダイトニ於テハ下漬濃度トロンガリット消失量ノ關係ハ極メテ明確ナル反應ナルヲ知り得ルモ鹽素
酸加里ニ於テハ甚ダシク不明瞭ナリ之レハ鹽素酸加里ノ酸化反應ハ酸性浴ニ於テ完全ニ發生スル性質ノ
モノナルニヨル

右之試験結果ヨリシテ、セロダイトニ於テハ千分ノ五鹽素酸加里ニヨル場合ハ千分ノ十又ハ夫レ以上ヲ
必要トス然シテ之等ヲ使用セル場合ニハ使用液ノ濃度ニシタガイテ右記ニヨリロンガリット消失量ヲ算
出シテロンガリット使用量ヲ増加スルヲ必要トス、例ヘバヒドロソペンクDFニ於テハ捺染處法トシテ
ハロンガリットC三%前後ニヨリテ捺染ニ行ヒ得ルモ之レヲ其儘セロダイト千分ノ五ノ下漬セルモノニ
應用セバロンガリットCハセロダイト中和ノ爲ニ消失セル量ガ多量ナル爲ニ拔染効果全ク得ラレザルニ
至ル。

尙ドクターカブリ防止トシテハ藥品、酸化劑ニヨル方法ヨリハドクターノ切レヲ最モ確實ニ行フコトハ
實用的最良法ナリト信ズルモノナリ。

〔三〕綿ネル仕上改善試験

本縣産綿ネルハ近來品質兎角低下ノ傾向ニアリ。加フルニ仕上法粗雜ナル爲カ内地ニ於ケル需要ハ減退ノ傾向ヲ辿リツ、アリ。勿論國內ニ於ケル一般生活様式ノ變遷モ大ナル原因ヲナスモノナリ。依ツテ仕上法ノ改善特ニ英ネル風ニ近キ仕上ヲ行ヒ現時ノ需要ニ適スルモノヲ製出セント着眼シ研究ヲ行ヒツ、アルモ何分安價ナル製品ナル爲ニ仕上工費極メテ低廉ナルヲ要スル爲ニ未ダ成績ヲ發表スベキ程度ノ試験完了セズ次年度ニ繼續研究ヲ行フ豫定ナリ

〔四〕シール捺染及仕上ニ關スル試験

本縣ニ於テ多量ニ生産サル、「シール」類ハ無地モノ多クシテ捺染加工品極メテ僅少ナリシール類ハ他ノ織物ト異ナリ捺染法ノ實施困難ナルニ原因スルモノナレバ、之レガ一般的捺染法研究ノ必要ヲ感ジ試験ニ着手シタルモバイル織物ノ捺染ニハ特種ノ機械裝置ノ必要ヲ認メタルニヨリ次年度ニ於テ其等ノ設備ヲ行ヒ更ニ一段深ク試験ヲ行フ豫定ナリ

二、依頼試験

事項	件數	點數
精練漂白ニ關スル事項	四件	四點
糸染ニ關スル事項	九	四二〃
布染ニ關スル事項	四	七〃
捺染ニ關スル事項	一一	三八〃
仕上ニ關スル事項	三	五〃
染料ニ關スル事項	一一	二〇〃
染色助劑ニ關スル事項	五	七〃
仕上劑ニ關スル事項	四	四〃
糊付法ニ關スル事項	五	六〃
糊料ニ關スル事項	三	八〃
工業藥品ニ關スル事項	四	四〃
工業用藥品分析ニ關スル事項	四八	一一〇〃
一般分析ニ關スル事項	四	六〃
水質ニ關スル事項	七	一七〃
捺染品強力ニ關スル事項	六	四五〃
不上品鑑定ニ關スル事項	二	二〃
雜染色漂白ニ關スル事項	二	三〃
		一三

三、質 疑 應 答

其 他	計	一三九	五
事 項	件 數		
精練漂白ニ關スル事項	一四		
糸 染ニ 關スル事項	一二		
布 染ニ 關スル事項	七		
捺 染ニ 關スル事項	一三		
仕 上ニ 關スル事項	六		
染料ニ 關スル事項	一三		
染色助劑ニ關スル事項	一五		
仕上劑ニ關スル事項	七		
糊付法ニ關スル事項	七		
糊料ニ 關スル事項	三		
工業用藥品ニ關スル事項	一七		
染色機械ニ關スル事項	六		
水 質ニ 關スル事項	四		
工場設備ニ關スル事項	三		
參老品標本ニ關スル事項	四		

一四
六〇
三四六

四、實 地 指 導

其 他	計	一六二	一八	二	五	六
染色業狀況ニ關スル事項						
雜染色漂白ニ關スル事項						
染色加工特許ニ關スル事項						

事 項	回 數
精練漂白ニ關スル事項	四
糸 染ニ 關スル事項	四
布 染ニ 關スル事項	一三
捺 染ニ 關スル事項	三五
糊付法ニ 關スル事項	五
仕 上ニ 關スル事項	六
藥品製造ニ關スル事項	二六
其 他	九

五、調 査

事 項	件 數
滿洲國及支那向輸出品及染色ニ關スル調査	九

中小工業不況狀況ニ關スル調査 四件
 未検査品ニ關スル調査並ニ染織業取締ニ關スル事項 一八件
 糸染工場ノ設備ニ關スル調査 一件
 染色機械ニ關スル調査 六件
 人絹捺染ニ關スル調査 二件
 特種捺染ニ關スル調査 五件
 晒業及晒製品ニ關スル調査 一件
 外國特許ニ關スル調査 一件
 特許ニ關スル調査 一件
 染色用助劑ニ關スル調査 二件
 染色試験室充實ニ關スル諸調査 二件
 其 他 八件
 計 六〇件

六、講習及講話

染色講習會 一回 二日間
 染色研究會及協議會 七回
 織物検査取締ニ關スル協議會 三回

七、參考品展示及標本配布

スラバヤ市場蒐集染色標本展覽會 一回 三日間
 スラバヤ市場蒐集染色標本配布 一回 三十部
 滿洲國ニ出張蒐集セル染織標本配布 一回 三十部
 天然絹膠狀液應用捺染標本配布 一回

八、其他

綿ネル生産ニ關スル照會 一件
 縣下ニテ製造スル洗濯石鹼ニ關スル照會 一件
 天然絹膠狀液ニヨル人絹艶消依頼加工 四件
 特許出願ニ關スル事項 二件
 鑽石分析ニ關スル照會 一件
 其 他 三件
 計 一二件

九、來場者

六百五拾八名

機

織

部

第二章 機織部

機織部業務ノ概要

近時本邦ニ於ケル織物工業ハ非常ノ躍進ヲナシ本縣下ノ織物又各原料ノ應用ニナル小供服地其他一般綿織物ニツキ相當ノ努力ヲ拂ヒ特ニ高級綿布、人絹絲應用織物等ノ研究ニ留意シ常ニ其ノ方面ニ進出セントセル機運ニ向ヒツ、アルハ喜バシキ現象ナリトス。

本部先年度業務ノ一端トシテ工場ノ設備ヲ借り受ケ試験ヲナシツ、アリシモ其不便少ナカラザルヲ以テ小規模ナガラ其ノ研究指導設備トシテ本年四月絹布織機變換機繰返機、高速管捲機其他原動機等ヲ購入約四ヶ月間ヲ費シ原動機機械其ノ他ノ据付等ノ工事ヲ經テ八月中旬ニ至リ初運轉及機械ノ調整ヲ終了シタルヲ以テ本格的製織試験ノ研究ヲ漸次指導啓發ノ目的ニ一層努力シ業績ヲ遂行シ向上ヲ計ラントス。

自發試験トシテハ人絹織物ノ益々需用ノ増加スルニ鑑ミ人絹絲ノ應用ニ重点ヲ置キ綿織機ノ利用ニナル輸出向人絹絲應用織物ノ製織試験ヲナシ、其ノ結果ハ多大ニ當業者ニ刺戟ヲ與ヘ計畫ヲナスモノアリ、又人絹綿混紡ニナル原絲ヲ「ネル」生地ニ應用シタルハ一般業者ノ希望ニ合致シ見本配布ヲナシ早クモ海外ニ通商ヲ開始シタルガ如キ状態ニアリ。

其他當業者ノ便ヲ計リ依頼見本製織試験、依頼試験、質疑應答、調査照會事項等ヲ行ヒ以テ其ノ研究及ビ指導ニ當リシニ當部ヲ利用研究シ向上ヲ計ラントスルモノ其ノ數漸次増加スル機運ニ向ヒツ、アリ、次ニ本年度ノ自發試験、依頼見本製織試験、質疑應答其ノ他ノ事項ノ概要ヲ摘記スレバ左ノ如シ

一、自發試驗

(一) 目的

經絲ニ人絹絲緯絲ニ綿絲ヲ應用シ輸出向毛葛及ビ捺染加工ポプリン生地ヲ綿織機ニテ製織セントス

- 經 絲 一五〇D 帝國人造絹絲其儘
- 緯 絲 三二番手綿双絲
- 箄 幅 七七、四種 箄密度一種間一〇羽引通數一羽四本入
- 經 絲 本 數 四九〇八本 外耳
- 綜 統 六枚 順次式通シ 組織斜紋
- 緯 絲 打 込 數 一種間 一六、九本 緯絲使用二挺杼
- 下 拵 方 法 製織品ハ後精練染色工程ヲ經ルモノニシテ其目的ヲ達スベク、經糊ヲ施シ綿絲ハ精練漂白ヲナセリ
- 製 織 機 械 平野式 製織ノ目的ヲ達スベク、製織ニ際シ機構ヲ人造絹絲經絲ヲ容易ニ製織シ得ベク 機械ノ調整及ビ構造ノ一部ヲ改造シ製織ニ供シタリ
- 整 經 長 二二、七五米 幅 八〇浬 織上 長 一七米 幅 七七、二浬 仕上 長 一六、二五米 幅 七六、二浬
- 結 果 稍々厚地ニ失スル傾キアルモ輸出向無地毛葛生地トシテ又捺染生地トシテ良好ナル光澤

(二) 目的

ト地風ヲ有シタル適品ヲ得織機ノ調整ニ於テモ又良好ナル成績ヲ得タリ

經絲ニ人造絹絲緯絲ニ綿絲ヨリ成ルドビ一機應用ニテ各種ノ模様ノポプリン「毛葛」輸出向生地ヲ綿織機ニテ製織セントス

- 經 絲 一二〇D 帝國人造絹絲
- 緯 絲 四二番手 綿双絲
- 箄 幅 七三、六種 箄密度一種間一四、九羽 引通數一羽四本入
- 經 絲 本 數 四三〇〇本 外耳
- 綜 統 一二枚 三紋体 順次式組織 1—3 斜紋ト平織ノ混成組織
- 緯 絲 打 込 數 一種間二二、八本 緯絲使用法一挺杼
- 下 拵 方 法 前記試驗ト同斷
- 製 織 機 械 前記試驗ト同斷
- 整 經 長 二二、八米 幅 七六、二浬 織上 長 一八米 幅 七一、一浬 仕上 長 一七、三〇米 幅 六八、五浬
- 結 果 輸出向「毛葛」ポプリン生地ノ適品ヲ得タリ 量目 一、九五五疔 量目 一、七七八疔

(三) 目的

綿絲ト「シミレーン絲」ノ應用ニナル特殊ナル生地ヲ得ムトス

經	綿絲	二〇番	單絲	
緯	綿絲	一六番	單絲	シミレーン絲一六番
篋	幅	八一、六五	糧	篋密度一糧一〇、二三羽
經系本數		一七一六本	外耳	引込數一羽二本入
綜	統	四枚	順次式通シ	組織2/2斜紋
緯系打込數		一種	間一六、五本	緯系ノ使用法一挺籽
下拵方法				經系ハ普通製織法ニ隨ヒ緯系ハ無糊加撚ニ精練糸ヲ用ヒ織製後加工ヲ施ス
製織機械				平野式
加工				精練漂白工程普通ノ方法ヲ行ヒ起毛及ビ施糊ス
整	經	長	二七、四米	幅
			八九糧	織上
				量目
				三、八二五斤
結	果			一般業者ノ希望ニ適シタル製品ヲ得タリ
				仕上
				長
				二二、八六米
				幅
				七八、七糧
				量
				三、五八二斤

(四) 目的

新規購入ノ撚糸機ノ調整ノタメ子供服地用其他織物ニ應用スベキ變リ撚糸ヲ作製セントス

供試機械 服部式撚糸機(強撚用飾糸用左右四工程使用改造型)

錘數 二列 二四錘

作製糸ノ種類	「モール」「リング」「コード」其他飾糸
供試糸ノ種類	綿糸 $40/S1$ $80/S2$ $20/1$ 人造絹糸 $120/D$ $150/D$ 絹紡「ノイル」 $20/1$ 梳毛糸 $60/S1$
加撚方法	普通一般ノ方法ニ準ジタル工程ニシテ撚糸數及方法ニツキテハ省略ス
試驗點數	二〇點
結果	供試機械ノ新規ナルト多少不備ノ點ヲ改良ナシタルニ飾糸トシテ良好ナル作製糸ヲ得タリ

二、依頼試驗

件名	件數	點數
羅紗生地ノ強伸度比較試驗	一	一六
原布ト捺染布ノ強伸度比較試驗	一	八
仁新捺染布ト生地ノ強伸度比較試驗	三	六五
綿糸ノ番手撿尺強伸度「セリブレン」試驗	一四	四五
捺染綿ネル強伸度比較試驗	一	四
人絹經糸糊付比較試驗	一	四
綿斜地小供服地「ネル」「ポプリン」人絹糸入	一	一
其他ノ組織分解設計	二二	五四

「タベット」ノ設計 三
 綿「ボブリン」生地ノ整理試験 二
 可溶性「ゴムノリン」ノ人絹糸糊付比較試験 一

計 四八
 二〇四

二四

三、依頼見本製織試験

一、目的 綿「カルゼー」トシテ南洋方面ニ輸出スル黒地ニ鼠ノ縞ヲ應用シタル斜紋織物ノ裏起毛ヲ施シテナル織物ヲ得ムトス
 經糸 一六番綿單糸 緯糸 二〇番綿單糸
 製織點數 五點

一、目的 經緯綿糸ヲ用ヒ支那滿洲其他ニ輸出トシテ杉綾ヲ組織トシタル染色加工生地ヲ得ムトス
 經糸及緯糸共 二〇番綿單糸
 製織點數 一點

一、目的 内地向子供服地トシテ各種色糸ヲ配置シタル格子ノ柄ヲ應用シ組織ハ斜紋ニナル織物見本ヲ得ムトス
 經糸 二〇番綿單糸 緯糸 一四番綿單糸
 製織點數 四九點

計 五五點

四、質疑 應 答

原料糸及番手ニツキ	件 名	件 數
「ボブリン」「ネル」小供服其他織物組織ニツキ		一一
經糸繰返機及管捲機ニツキ		一六
傳導裝置噴霧機發電機照明ニツキ		九
變リ撚絲機及變リ撚絲製造法其他ニツキ		一三
機械ノ廻轉ト調車ノ關係ニツキ		二
絹布綿布力織機並付替裝置ニツキ		一一
人絹糸經糸糊付法ニツキ		一五
人絹糸應用織物ニツキ		一一
人絹糸應用織物製織工場建築ニツキ		四
一般織物工場建築ニツキ		二

二五

絹織用其他普通「ドビー機織仕掛」ニツキ	一七
人絹經糸糊付トシテノ「ゴムノリン」糊料ニツキ	四
綿「ボイル」製織方法ニツキ	三
ポプリンワイシャツ地織仕掛及調整ニツキ	一四
整經機及整經方法ニツキ	一
經緯「ヨロケ装置」ノ「ネル」生地應用ニツキ	一
厚地織物ノ「タベット」ノ設計ニツキ	二
婦人用靴下生地ニ有毛組織縞入應用ニツキ	一
捺染用「ガイドテープ」製織ニツキ	一
肩掛織意匠ニ對スル組織ノ構成ニツキ	二
製織能率ト従業員ノ技術ニツキ	二
「シール織」及其他ノ紋織裝置ニツキ	三
「ハンカチーフ」製織法ニツキ	一
「ノイル」系應用織物ノ納税ニツキ	一
「スラシャサイジント」機ニツキ	一

乾濕計ノ使用法ニシキ	一
シミレール系應用「ネル」ニツキ	三
其他	六
計	二〇九件

五、實地指導

人絹綿交織全機調整	一	} 件數
二本シリンドグードビー機運轉調整	一	
ジャフテイグ調整	一	
袋組織製織ニ對スル織機ノ調整	一	
ワイシャツ地製織ニ對スル織機方法	三	
高速度管卷機ノ調整	一	
絹織仕掛ノ織機調整	一	
ドビー機ノ据付及ビ調整	三	

人絹經糸糊付方法ニツキ

計

一〇
二三

六、調査

件名

サイジnk機ニ關スル調査

力織機ニ關スル調査

縞三綾ニ關スル中小商工業不況狀態調査

タオル工業統制ニ關スル調査

綿細番手糊付方法ニ關スル調査

織機及從業員ニ關スル調査

織物原價採算ニ關スル調査

綿糸相場高低ニ關スル調査

隨時ニ於テ調査ス

七、特別工場設計依頼

(イ) 工場設計及模様替(力織機三〇臺ニ對シ前年度繼續)

(ロ) 工場電燈照明配置設計(二キロワットニ對シ)

(ハ) シール織工場採光窓配置設計(七十二坪ニ對シ)

計

三件

八、照會 (當業者ノ依頼ニ依ル)

織物ニ關スル照會

三件

糸ニ關スル照會

一〇件

工場附屬品ニ關スル照會

一件

織物用具ニ關スル照會

三件

調帯ニ關スル照會

一件

箒ニ關スル照會

三件

調車ニ關スル照會

一件

力織機ニ關スル照會

四件

毛織物ニ關スル照會

二件

重油機關ニ關スル照會

一件

取引生産額ニ關スル照會

一件

管卷機械ニ關スル照會

三件

人絹織物ニ關スル照會

一件

計

九、標本配布

特殊シミレーン糸應用ナル本塲試織品

一回

一〇、來場者

六一七名

釀造部

第三章 釀造部

一、縣下釀造業ノ概況

本年度上半期釀界稍活氣ヲ呈シタレドモ下半年期ハ頭ヲ打チ反落稍沈滯鈍重ノ氣勢ヲ示スニ至リ清酒ノ四分八厘増ヲ示セル外他ハ減石ヲ示スニ至レリ

本年ノ酒造ハ初期稍過暖警戒ヲ要シタレドモ其後順調トナリ最盛期ハ希有ノ寒冷ニ惠マレタレドモ米質過熟ニシテ硬ク溶解不良粕多キ傾向ナリシモ技術ノ向上ト注意ノ周到ノ結果昨酒造期ト同様腐造皆無トナリシノミナラズ酒質統一一段ノ進境ヲ表ハシ和歌山酒ノ特徴タル濃醇性ヲ益々發揮シ原料米撰擇精白ノ向上ニ連レ芳醇各地ニ簇出シ近年ニナキ發達ヲ示シタリ其ノ設備的ノ改良モ亦著シク堅型精米機ノ新設十數臺ヲ算シ冷藏設備又一庫ヲ加ヘ法郎タンク銅製タンク、桶錫張等漸ク容器ノ改善ニ意ヲ注グモノ多ク特ニ酒造ノ科學的管理ノ必要ヲ認知シ折設備ヲ備フルニ至ルモノ夥シクナレルハ眞ニ喜ブベキ現象ナリ

殊ニ本縣業者ノ其ノ經營ノ着實ナル点ハ他ニ優レ其ノ一戸當リ約千石ニ達スル造石高ナルハ全國的ニ見テモ第三位ヲ下ラザルベシ、唯ダ氣候ノ暖貯藏中ニ於ケル酒ノ熟化早く老熟スルノ傾向著シキモノアリ然ルニ世ノ嗜好ハ若キモノヘト推移シツ、アル折柄容器ノ改善ト相俟ツテ冷藏設備ノ利用ヲ爲スノ要益々多シ

醬油業ハ自家用醬油ノ進出ト印物ノ多量生産壓迫ト久シキ不況ニ崇ラレ漸ク經營困難化シ本年ノ造石高ハ昨年ニ比シ約三分減ニシテ今ニシテ更生ノ道ヲ講セザルハ悔ヲ百年後ニ遺スベク有志ハ同業組合地域ヲ縣下全圓トシ更ニ進ムデ工業組合化シ縣下同業一團トナツテ製産ニ販賣ニ一大改良ヲ講セムト計畫中ナリ。

本年度本縣釀造高ヲ表示セバ左表ノ如シ

昭和八年度本縣釀造物製產高表

(稅務署ノ調査ニ原ク)

稅務署別	種目	清酒		味林		燒酎		醬油		酢用酒精	
		製成高	場入數員	製成高	場入數員	製成高	場入數員	清味	場入數員	製成高	場入數員
和歌山	和歌山	三、四、七、六、三、三	一、九、二、二	九、四、二、二	一、三、五、〇	五、〇	一、七、五	一、七、五	八	六	
海草	海草	二、九、一、八、二、三、三	—	九、三、三、三	六、七、〇	三、七、三、七	—	—	—	—	
粉河	伊都	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
湯淺	有田	四、四、八、六	—	—	—	—	—	—	—	—	
御坊	日高	五、八、四、一、八、八	目下製	兼兼	一、三、七、〇	一、八、一、八	—	—	—	—	
田邊	西牟婁	五、九、七、七、六、三	目中製	—	二、七、〇、五	一、六、一、六	—	—	—	—	
新宮	東牟婁	三、三、一、一	—	—	九、六、八	七、七	—	—	—	—	
計		八、〇、二、四、九、〇、八、九	目下不明	一、五、七、七	三、七、七、九	二、八、〇、二、八、〇	—	—	—	—	
前年		七、六、一、八、八、四	見込三三	一、七、七、七	三、六、八、五	二、六、一、八、六	—	—	—	—	
増減		三、九、六、二、五	〇〇	一、七、〇、〇	一、一、二、六	六、六	—	—	—	—	

二、自發試驗研究

(一) 和歌山市内優良酒造用水ノ探索

和歌山市内ノ酒造用水ハ近來上水道ノ發達ト築港トノ影響ニ原キ其ノ水質惡化セルモノ多シ依テ市内ニテ優良酒造用水ヲ産スル中ノ島方面ニ於テ優良酒造用水ヲ探索シ以テ市内酒造家ノ便益ヲ計ラント欲シ中ノ島南ノ町中ノ町ノ井水五七戸中ヨリ硝酸反應顯著ナルモノ十三点ヲ撰出シ之ガ完全分折ヲ爲シ更ニ此ノ中ヨリ五点ヲ撰ビ酒造適良水トシテ其ノ使用ヲ奨励シ本酒造期ニ實地使用セシメタル結果ハ極メテ優良ニシテ酒母ヲ湧キ遅レニ導キテ取り易ク醗ノ醗酵旺盛ニシテ酒造適良水タルコトヲ確認スルニ至レリ。

中ノ島方面ノ井水ハ皆硝酸反應ヲ呈シ硬度ハ四、七九乃至五、六度鹽素七八乃至二五〇砒鐵分痕跡乃至〇、一砒ニシテ亞硝酸、アムモニアヲ微セズ有機物モ少ク硝酸含量五〇乃至一〇〇砒ニ達スルモノ多シ。

現今ノ井戸ノ深サ水面迄十二乃至十一尺水深四乃至七尺ニシテ水深四尺以下ノ井水ハ硝酸少ナク水深五尺一七尺ノ井水ハ硝酸含量多ク水深七尺以上ノ井水ハ鐵氣多ク大体ニ於テ南ノ町中ノ町ノ境界附近硝酸多ク夫ヨリ東ニ向フニ連レ減少スルト共ニ鐵分反ツテ増加ス大体東ハ中ノ町吉村迄、西ハ南ノ町三原迄此ノ間約三丁間硝酸多シ井關氏ノ井戸以外ハ湧出量少キニヨリ上記ノ深サノ程度ニテ懷ノ廣キ井戸ヲ設ケテ酒造専用ニ供スルヲ便ナリト考フ

(二) 磨型各種精米機使用精白米ノ浸漬蒸餾試驗

八千代、旭、高橋、中野、獅子王、佐竹ノ六種ノ豎型精米機ニ依テ三割白前後ノ精白ヲ爲シタル白米ニ就テ比較調査ヲ爲セル結果ハ下表ノ如ク精米機ノ種類ニ依テ同一原料米モ完全粒ノ重量、脱芽率、吸水龜裂率吸水率、蒸餾吸水率ニ大差ヲ生スルヲ以テ醸造ニ際シ精米機ノ種類ニ應ジ原料處理ヲ適宜ニ爲スノ必要大ナリ。

精米機記號	搗滅歩合	完全粒百粒量	完全粒中無芽百分率	完全粒吸水龜裂百分率	完全粒吸水百分率	完全粒蒸餾吸水百分率
A	三一	二、〇八四	四	五	二六	四九、五
B	三、〇	二、二五一	六	三	一九	三九、〇
D	三、三	二、二六七	六	五	二八	三六、〇
E	三、五	二、一五五	六	五	三〇	四〇、五
F	三、六	二、三〇八	五	三	三三	四九、〇

(三) 木綿張酒造米蒸餾法試驗

九州方面ニテ用ヒラル、甑ニ木綿ヲ張り蒸氣ヲ放散セシメズ低壓下ニ蒸ス方法ヲ在來法ト比較スルニ硬質米ノ蒸餾ニハ適スルモノ、如シ

(四) 等低溫麴ト在來麴トノ比較

管内某酒造場ニ於テハ製麴各段操作ノ品溫二九—三〇度ニシテ決シテ最高溫ヲ取ラズ普通ヨリ三—五時間入室時間ヲ長クスルノミニテ出麴ハ蒸米香ヲ殘シもやし香全ク消ユサル破精廻リ惡シキ普通法ノ仲位ノ狀貌ニテ甘味殆ド感ゼザル一見未熟麴ニ似タリ、然レドモ其ノ酒ハ相當酒精モツキ稍肉薄キ感アレドモ捌ケヨク秋晴レノスルモノニシテ粕ハ十二三貫ナリ之ヲ分析調査セルニ下ノ如シ

在來法麴	平均	糖化力	アミノ酸	糖分	色度
最 大	四、三	九、一九	二、一五	〇、〇七六	
最 小	一〇、〇〇	一五、〇〇	二、七五	〇、一五	
等低溫麴	四、〇	七、五〇	二、〇〇	〇、〇七	

此ノ調査ノ成績ニ依レバ製麴上敢テ最高溫ノ必要ナキモノ、加ク觀察サレ將來酒麴製造上此ノ方面ノ研究ヲ充分爲ス必要アリ。

(五) 元添配ノ初溫急降法ト在來法トノ比較研究

元添配ノ仕込ヲ二十一度ニ兩方共仕込一ハ二番權後半切ニ分ケ外氣溫六度迄降下セシメ他ハ壺臺ニ置キ自

然低下四度トナリタルモノトヲ其後ノ操作ヲ同一ニシテ比較研究セルニ前者ノ方香氣ニ於テ優レタル様ニ感ゼラレ吟醸ニ使用セル結果品評會成績優等ニナリタリ

(六) 半田式糯米四段仕込試験

半田方面ニ行ハル、糯米四段仕込方法ヲ參考トシテ試験シタル結果ハ下記ノ如シ

(イ) 仕込配合

酒母	初添	仲添	留添	追留	計
蒸米	一、二六〇	一、〇〇〇	三、六〇〇	三、一〇〇	五、〇〇〇
麴米	、五〇〇	、八〇〇	一、一〇〇	一、五〇〇	四、〇〇〇
汲水	一、三六〇	二、一〇〇	五、〇〇〇	八、五〇〇	一七、〇〇〇

原料米 那賀郡池田村 搗減一、三割 追留糯米 臺灣産 搗減全上

(ロ) 仕込温度

初添三、〇 踊二、五 仲添九、五 留添八、〇

(ハ) 枝打

三日目 親二、五 子一〇、五 四日目 親三、〇 子二、〇 五日目 親三、五 子三、五 六日目 親二、五 子三、五 七日目 親六、〇 子三、五 口打 親六、〇 子三、五

(ニ) 泡付

四日目 親三、〇 子二、五

(ホ) 高泡

五日目 一週日持續ス 落泡 留後一二日目 玉泡留後一五日目三、〇

(ヘ) 最高温

留後一四日目 期間二日 三、〇

(ト) 追留

留 一八日目 品温二〇、五
槽 二五日目 品温三、二

(リ) 追留後ノ權入

糯米投入後三〇時目ヨリ一日三回混合スル程度ニ入ル

(ヌ) 製成歩合

醪歩合一、五三 清酒一、四三 醪垂、八三 水量、九〇 粕七、八三

(ル) 分析結果

清酒メートル(一四、七 酒精七、六 エキス二、四 原エキス四二、〇〇 總酸〇、一四六

糯米臭ヲ有シ恰カモ味淋ノ如ク甘口ニシテ濃ク意地ナシ甘口調合用トシテ可ナラン

(七) 清酒熟化速進試験

新酒ノ古酒化ヲ早ムル目的ニテ電熱温室ニ新酒ヲ華氏一三〇度ニ火入シタルモノヲ約三ヶ月保チ時々檢シタルニ室溫華氏二二——三一度ニ於テハ火入後三週日ニテ新酒香消失スルヲ認メタリ之ヨリ後ハ桶意地浸出多クシテ飲用シ惡キニ至ル。

(八) 圍桶塗料比較試験

本年ハ柿澁塗布ト同上鹽酸固定法トニ就テ調査シタレドモ兩者共澁乾燥若キニ過ギ澁酒ニ浸染シテ結果不良トナレリ、矢張り五〇日以上枯ラス必要アリ

(九) サブロゲン除去ト清酒ノ火持トノ關係研究

新酒ヲ石當リ五五夕ノ割合ニ富士炭素ヲ用ヒテ脱色濾過シ火入シ一ハサルチール酸ヲ入レ他ハ無サルニテ圍ヒ比較セルニ「無サル」ノ方ハ二ヶ月ニシテ火落ちセリ、之ヲ以テ見レバ「サブロゲン」除去ハ上記ノ程度ニテハ不可ナラン。

(十) 醬油ノ分析鑑評成績ト感能審査ノ比較研究

醬油ノ分析鑑評成績ト感能審査成績トヲ比較研究セシニ寧ロ分析鑑評ノ方ガ正シキ如ク感ゼラル。分析鑑評ニハ比重(母氏ニテ測定シ)越幾斯食鹽、總窒素、總酸糖分ヲ定量シ總酸〇、九一、一ノ範圍ニテエキス量ヨリ食鹽量ヲ減シ之ニ總窒素ノ一〇倍量ヲ加ヘタルモノヲ鑑評成績ト爲シ其ノ順位ニ列ヘル時ハ殆ト品質順トナル大休優良醬油ハ分析鑑評成績數二九以上(酸ノ範圍ハ上記ノ如シ)ナレハ多キ程ヨシ

二、依 賴 試 驗

件 名	件 數	點 數
酒造用水分析	七一	一五三
清酒中ノ鐵分檢定	一	一
酒粕強弱試験	一	一
清酒分析	二八	五三二
清酒中ノ蒼鉛鑑定	一	一
清酒調合法試験	一	一
清酒脱色試験	二	二
清酒中ノ活性炭有無鑑定	一	三九

清酒防腐劑試驗

四〇

清酒強弱鑑定

一五

七二八

清酒濁濁原因調査

一

一

清酒槓香除去試驗

一

一

清酒張リ香有無鑑定

一

一

清酒火止試驗

一

六

酒清澁下ケ試驗

一

一

醱 鑑 定

五七

八二

酒造用種麴鑑定

一二

二四

酒麴鑑定並ニ分析

三七

八四

清酒醱分析

一八

三八

清 酒 鑑 定

二二

五八

醬油用アミノ酸分析

四

五

鹽 水 分 折

一

一

醬油仕込水分折

一

一

醬 油 分 拆

三九

六五

醬 油 鑑 定

五

一一

醬油用グリチン中ノサツカリン鑑定

一

一

醬油ノ素分析

一

一

食酢良否鑑定

二

二

食酢中ノ砂糖鑑定

一

一

葡萄酒鑑定

二

二

葡萄酒分析

一

一

落柿利用法研究

一

二

計

三五七

一、八七三

三、質 疑 應 答

件 名

件 數

點 數

清酒脫色方法ニ就テ

五

五

清酒袋香除出方法ニ就テ

一

四一

酒槽中古品値段並ニ販賣先ニ就テ

間酒ノ處理法ニ就テ

清酒割水貯藏方法ニ就テ

清酒火入溫度ニ就テ

滿洲國ニ於ケル清酒釀造業經營ノ可否ニ就テ

清酒搾リ袋ノ販賣先ニ就テ

酒樽ノ最良手入法ニ就テ

酒麴室ニ就テ

清酒ノ曇ノ原因ニ就テ

際型精米機ノ最良ナルモノハ何カ

麴室絶縁材ノ交替ニ就テ

酒造用精米機ノ種類ニ就テ

辛口トナル原因ニ就テ

ニバギンノ防腐力並ニ使用可否ニ就テ

鐵路ノ酒造ニ及ホス影響ニ就テ

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

清酒防腐劑オメガニ就テ

清酒仕込配合法ニ就テ

清酒火香除方法ニ就テ

本年度島取米ノ酒造用價值ニ就テ

早稻米ノ酒造米價值ニ就テ

既卸桶ノ使用回数ト早湧キ關係及ヒ

澁塗ノ效果ニ就テ

火落酒ノ矯正法ニ就テ

西文精米機ノ價值ニ就テ

夏期飲用清酒ニ就テ

圍桶ノ柿澁塗布方法ニ就テ

圍桶ノ据付位置及貯藏中ノ藏ノ開閉ニ就テ

酒袋ノマシン油香除去ニ就テ

古米ヲ酒造原料トスル場合ノ影響利害ニ就テ

某酒造場酒母改良ノ要點ニ就テ

古米ノ使用方法ニ就テ

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

二硫化炭素燻蒸米ヲ酒造用ニ供シ得ルヤ

最近清酒釀造方法ノ研究事項ニ就テ

清酒ニ壘香ヲ附ケヌ方法ニ就テ

清酒冷蔵設備費ニ就テ

今摺米ト古米トノ優劣ニ就テ

火落桶手入法ニ就テ

中ノ島方面ノ井水ノ性狀ニ就テ

朝鮮穀良都米ノ酒造米トシテノ適否

本場清酒酵母ノ種類ニ就テ

某酒造場酒質ノ缺點ト改良法ニ就テ

速醸醗取リ方ニ就テ

甲乙兩水混合ニ依テ硬度ハ如何ナルカ

酒精引酒精ノ濃度如何

新槽ノ手入法ニ就テ

某酒造場醗ノ捌ケ不良ノ原因ニ就テ

酒母製造「ブレイキ」ノ利用法ニ就テ

本年度ノ酒造注意事項ニ就テ

割ノ利ク粕ノ少イ酒ノ造リ方ニ就テ

酒造仕込水加工方法ニ就テ

亞硝酸反應ト早湧ニ就テ

本年ノ米質ニ就テ

活性炭ハ何カヨイカ

酒ノゴミ香除去方法ニ就テ

醬油百石ニ要スル設備費並ニ收支計算ニ就テ

醬油麴過濕ノ原因ニ就テ

大豆粒形ノ大サト醬油ニ就テ

醬油調味料製造上中和点ヲ知ル方法ニ就テ

鹽水調製方法ニ就テ

出品醬油ノ製成法ニ就テ

醬油中ノ「サツカリン」檢出法ニ就テ

二〇

二〇

醬油黴止劑ニ就テ	三	四六
陸軍ノ醬油鑑定標準ノ意味ニ就テ	一	一
醬油發泡ノ原因ニ就テ	一	一
陸軍納入規格ニ合スル様醬油ノ製成方ニ就テ	一	一
醬油ノ總窒素增加方法ニ就テ	一	一
黃双ヨリ「カラメル」製造收得量ニ就テ	一	二
薄口醬油製法ニ就テ	一	一
龜甲萬醬油ノ汲水量ニ就テ	一	一
アミノ酸ノ使用方法ニ就テ	五	一
大桶仕込醬油醱夏期空氣攪拌程度ニ就テ	一	一
醬油醱空氣攪拌程度ニ依ル惡影響ニ就テ	一	一
三等鹽百斤ニ代フルニ一等鹽何斤ノ割ナルカ	一	一
柿澁ヲ醬油搾リ袋ニ爲ス場合ノ濃度及ヒ	一	一
使用方法ニ就テ	一	一
醬油麴分離方法ニ就テ	一	一
醬油麴室ノ設計ニ就テ	一	一

三田村式再製醬油ノ製法ニ就テ	一	一
酒精酢ノ製造方法ニ就テ	一	一
米酢製法ニ就テ	一	一
酒精酢ノ曇ル原因ニ就テ	一	一
葡萄酒ノ製法ニ就テ	一	一
二番葡萄酒ノ製法ニ就テ	一	一
味淋製法並ニシラツブ製法ニ就テ	一	一
清涼飲料水製造設備ニ就テ	一	一
肥エ松ヨリ松根油ヲ取リタル殘液ノ利用法ニ就テ	一	一
計	一二九	一二九

四、出 張

一、實地指導	一四〇日
清酒實地指導	一〇日
醬油實地指導	

五、調 査

一、視察及ヒ事務打合セ品評會酒造組合中央會
 縣外視察
 事務打合品評會酒造組合中央會

一、精米機ニ關スル調査 一件
 二、アミノ酸製造機械調査 一件

六、講習講話研究会並ニ座談會

名 稱	場 所	月 日	參加人數
酒造研究会	岐阜、大阪 本 場	五月二日 六月一六日 七月三日 九月二二日	一二月一二日
杜氏研究会	和歌山市 伏見 那賀郡山崎村	一月一〇日	
酒造講習會	西牟婁郡新庄村	自七月三十一日 至八月三日	九四人

七、品 評 會

名 稱	會 場	期 日	出品点数
醬油講話會	有田郡湯淺	七月二〇日	一五人
酒造講話會	那賀郡粉河	一月五日	三七人
全	和歌山市	一月一〇日	三〇人
酒造座談會	和歌山市	九月二十二日	三十數人
本場主催第二回 和歌山縣清酒品評會	本 場	一月二日	一一一
本場主催第一回紀伊 醬油組合醬油分析鑑評會	本 場	自一月四日 至一月二〇日	二八
和歌山酒母麴品評會	本 場	一月五日	各三〇
伊那酒造組合清酒品 評會	粉 河	自三月一〇日 至三月一一日	一一三
紀南四郡清酒品評會	田 邊	三月一二日及 三月一七日	八四

和歌山清酒品評會

自三月一三日
至三月一四日

五〇

和歌山縣清酒品評會

自三月一六日
至三月二三日

一一〇

和歌山縣醬油品評會

全右

二九〇

一七七

八、視 察

一、酒 造 視 察

視察場所

主 催

期 日

參加者

京都市伏見

伊那酒造組合

一二月一七日

一三人

全右

和歌山杜氏研究會

一月一〇日

一四人

愛知縣知多郡及
名古屋市

和歌山酒造組合聯合會

一三人

二、醬 油 視 察

場 所

主 催

期 日

參 加 人

龜甲萬關西工場

紀伊醬油釀造同業組合

五月一六日

三四人

九、清酒酵母配布高

本年度清酒酵母ノ配布量ハ三九〇配分ニ違セリ菌種ハ加茂鶴酵母ト第五號酵母ノ二ナリ

一〇、記 錄 配 布

(一) 和歌山縣酒造法要諦(三田村技師著)

(二) 酒母麴科學的調查成績書

(三) 古酒鑑評會出品酒分析表

(四) 伏見酒視察報告書

(五) 知多酒視察報告書

(六) 龜甲萬視察報告書

(七) 醬油分析鑑評會成績書

(八) 市場銘柄醬油分拆報告書

一一、來 場 者

千 二 十 六 人

漆
器
部

第四章 漆器部

縣下漆器業ノ概況

本縣下ノ主要漆器産地タル海草郡黒江町、日方町ハ昭和七年度ニ比較スレバ稍々生産額ニ於テ増額ヲ見タルモ久シキニ亘ル當業ノ不振ハ生産數量ニ比シ産額著シク低下ス殊ニ夏期ニ於ケル漆器ノ需要減退ハ繰業短縮、金融ニ依リテ辛クモ切抜ケツ、アル處ニシテ常ニ採算アル價格ヲ維持スル事困難ナル状態ナリシモ本年度ニ於ケル夏期ハ繰業短縮等ノ事ナク例年ニ比シ稍々活況ヲ呈シ産額ニ於テ約一割ノ増額ノ見込ナリ即チ閑散期タル夏期ニ比較的賣行良好ナリシハ需要期ナル秋期ノ暴騰ヲ見越シタル思惑買ニシテ購買力ノ増進ニ基因セルモノニ非ラズシテ然モ當然値上リスベキ秋季ニ期待スベキ程ノ結果モ得ザリシ爲結局生産額約一割(參拾萬圓)ノ増額モ一般ノ物價ノ騰貴ニ依ルモノト見ルベク即チ材料タル木板、漆液ハ例年ニ比較シ高價(約一割)ニシテ小資本ノ製造業者ハ此ノ材料高ニ依リ工賃ノ値上ゲモ出來ズ依然不況ノ苦盃ヲ嘗メタリ輓近漆器ノ需要ハ食器道具類(會席膳、重箱等)ヨリ漸次進物用品(主トシテ盆類)ニ變遷シツ、アルハ注目スヘキ現象ニシテ進物用漆器ハ体裁優美價格低廉ナルヲ第一條件トスルモノニシテ紀州漆器ガ其ノ特徴ヲ具備スルモノナリ然シ其ノ製造資金ノ枯渴ハ値段ノ下落ニ伴ヒ木地ノ乾燥ヲ充分ニ行フ事困難ナル状態トナリ尙其ノ上出來得ル限り原價ヲ切下ゲテ漆器以外進物用品又ハ同業者ニ對抗セントシ勢ヒ粗製濫造ニ陥リツツ

アルハ將來大イニ考慮ヲ要スル問題ナリ之等ノ弊害ニ鑑ミ紀州漆器同業組合ニ於テ製品ノ検査ヲ嚴重ニナサシメ品質ノ低下ヲ防ギ新製品ノ考案ヲ督勵シ以テ新市場ノ開拓ヲ計リ同業者相互ノ深刻ナル競争ヲ緩和セント企圖シツ、アリ

又輸出向漆器ノ振興策ヲ講究シ廣ク販路ヲ海外ニ求メ數年來ノ生産過剩ヲ解決セントスルモノニシテ紀州漆器同業組合ト緊密ナル聯絡ヲ保チ以テ之等ノ計劃ヲ達成ニ努力シツ、アリ

特ニ本年度ヨリ商工省ニ於テ之レガ工藝振興計劃ニ關シ補助費ノ交附アリテ其ノ氣運ヲ一層醸成シ、試作品展覽會ノ開催講習會講演會等ノ開催、工藝品ノ見本製作等指導獎勵ニ努メ着々其ノ實績ヲ收メツ、アルハ誠ニ欣幸ニ堪ヘザル所ナリ

二、自發試驗研究

(一) 漆器面ニ於ケル連續模様ノ簡易ナル表現方法

輪轉機式ローラーノ結合ニヨリ絶エズ塗料ヲ版面ニ平滑ニ塗布セシメ之ヲ器物ニ轉寫シテ連續模様ヲ表現セシムル方法ヲ研究セルニ塗料ノ平滑ヲ缺キタルモノノ点ヲ考究スレバ實用的ナルモノト思考ス

(二) 浮出模様漆器木地ノ塗裝研究

浮出模様面ヲ蒔地トナシ塗分け或ハスプーレニ依ル塗裝ニ依ツテ皮革製品ニ見ル如キ感ヅヲ表現スルコトニ努メ輸向、或ハ内地向キトシテ嶄新ナル結果ヲ得タリ

(三) 紀州彫ノ創作研究

趣致豊カナル丸刀彫リ漆器ヲ基礎トシテ改善ヲ加ヘ之ヲ紀州彫ト名銘シ獨特ノ地方色ヲ發揮セシメ尙意匠、彫刻、塗裝等ニ一層新味改善ヲ増スコトニ努メツ、アリ

(四) 塗立面ニ簡易ナル拔模様ヲ現出セシムル方法ニ付キ

從來繁雜ナル手數ヲ要シタル拔模様法ヲ一層簡易ナルモノトナス爲ニ之ガ方法ヲ考究試作シタル結果塗立ト同時ニ拔模様ヲ得タリ其ノ應用範圍極メテ廣キモノト思考ス

(五) 塗立ト同時ニ種々ナル模様ヲ表現セシムル方法ニ付キ

器物ノ廻轉ト漆液ノ流動ト相俟ツテ塗立ト同時ニ種々ナル紋様ヲ顯出セシムル方法ニ依リ之レガ技術或ハ意匠等ニ關シテ尙引續キ考究中ナリ

(六) 摸擬金地法ノ研究

錫鉛或ハアルミ鉛ノ使用ニ依リ金地ノ如ク見紛フ製作方法ヲ考究シ廉價ナル器物ニ之ヲ施シ良成績ヲ得タリ

(七) 漆器 木地ノ曲線研究

湯曲及挽曲木地ハ當地ニ於テ多量ニ生産セラル、ヲ以テ本年度ハ挽曲木地ノ應用範圍ヲ擴ムル爲ニ前年ニ引續キ之ヲ研究試作シタル結果底部及二側面ヲ挽曲ゲトシテ器物ヲ構成シ獨樂形、船形、U字形等箱物トシテ適合セル形狀ヲ案出シタリ

(八) ブナ材漆器 木地ノ適否試験

ブナ材ヲ以ツテ漆器木地ヲ製作セントスル爲ニ曝露試験ヲ行ヒタルニ收縮又ハ反徵多ク當紀州漆器木地トシテハ不適當ナリト認ム

(九) 編縁漆器ノ研究

木地ノ形狀ヲ變化セシムル外藤ノ染色又ハ塗漆ニ依ツテ一層堅牢ニシテ實用的ナルモノトシ尙、貝、ガラス、竹、疑玉等ヲ配列シテ編付ケ之レニ適合シタル各種塗色及金地仕上トナシタリ東洋趣味豊カニシテ内外向漆器トシテ良好ナル結果ヲ見タリ

(十) 本縣産青貝粉ノ應用塗飾ニ付テ

縣下貝卸製造ノ副産物トシテ産出サレル青貝粉ヲ用ヒ之ヲ漆器塗飾ニ應用試作シタルニ石目様ノ青貝塗ヲ得タリ光澤優美ニシテ堅牢ナルヲ以ツテ之レガ應用範圍擴キモノト認ム

(十一) 輸出漆器ノ見本試作

輸出漆器ノ改善ニ關シテハ前年度ヨリ引續キ之ヲ行ヒ絶エズ研究試作ニ努メタリ左ニ主ナルモノ、品種意匠、工作等概要ヲ示ス

一、ケーキブレード

數量

十

形狀

丸形(湯曲高足)

下地

堅地

模様及塗

呂色及塗立ノ色塗トナシ主トシテ外側ニ模様ヲ施シ使用ニ際シテ模様ノ隠ル、コトナキ様考慮シタリ

二、インクスタンド

數量

一

形狀

長方形

下地

堅地

模様及塗

人工模様竹材ニシテイंक入レノ部分ヲ竹ノ圓筒ヲ利用シテ内部ニガラス壺ヲ嵌入シ塗分ケノ竹縁ペン皿ニ固着セシメ新規ニシテ雅致多キ作品

數量 形式 下地 模樣及塗

一 圓筒
セルバ仕上ゲ
人工模樣竹材ニシテ外面ニ陶器用轉寫模樣紙ヲ貼リセルバ仕上ゲトナス。

四、置物台

數量 形式 下地 模樣及塗

四 イ、ロ、ハ、長方形 ニ、角繼形
堅地

(イ) ハ錫金貝ヲ以ツテ線模樣トナシ淡紅色塗研出シ四ツ足ノ裏面ヲ

羅紗張リトナス

(ロ) ハ本朱塗リ艶消シトナシ側面ヲ金縁トナシタリ

(ハ) ハ隅切り額縁トナシ内部ニ浮出模樣別珍ヲ張リ之レト調和ヨキ

塗裝ヲ施シタリ

(ニ) ハ黒塗トナシ金縁ヲ施シタリ何レモ從來ノ型ヲ脱シタル新試作品ナリ

五、ブツクエンド

數量

一

形式 下地 模樣及塗

レ形
堅地

中央部ヲ人工模樣竹材ヲ以テ接ギ合セ他ヲ朱塗リトナシ裏面ニ綠ノ羅紗ヲ張リタリ

六、ビール盆

數量 形式 下地 塗及模樣

一 羽反長手(手穴付)
堅地

内部ニレースヲ張り朱溜塗トナシ之レト調和ヨキ淡紅色塗トナス堅牢ニシテ新規ナル作品

七、煙草窩

數量 形式 下地 模樣及塗

二 長手形(被蓋)
堅地

(イ) ハレース張リトナシ金溜塗トナシタリ

(ロ) ハ前項自發試驗ニ依ル金地拔模樣ヲ施ス

八、白粉入

數量

二

形 狀
下 地
摸 樣 及 塗

圓筒(蓋付)
堅地

(イ) ハ人工摸樣竹材ヲ應用シ内部ハ金箔ヲ張り蓋ハ淡紅色塗トナス
(ロ) ハ全ジク竹材應用ニシテ上部ヲ梅形ニ刻ミ表皮以外ハ朱塗トナシ蓋ノ撮ミハ紐ヲ結ビタリ

九、手 袋 筥

數 量
形 狀
下 地
摸 樣 及 塗

一
長手
堅地
黑塗トナシ金ノ帶線ヲ全面ニ縞摸樣トナス

十、コ ー ヒ ー 盆

數 量
形 狀
下 地
摸 樣 及 塗

十
長方形 (イ)八角長手二 (ロ)ハ長手變リ隅三種各一
(ハ)長手船形手穴付二 (ニ)長手外羽反リ手穴付三
堅地
各々白、淡紅、綠、朱、紅、等ノ塗立仕上トナシ内八角長手ハ色蒔繪ヲ施セリ從來ノ形ヲ脱シタル試作品

(十二)内地向漆器ノ試作

前項自發試驗研究ニ依リ内地向漆器トシテ試作シタル主ナルモノ、品種、意匠、工作等ノ概要ヲ示ス

一 名 刺 入

數 量
形 狀
下 地
塗

一
U字形(蓋付) 前項曲線研究ニ依ル
堅地
全部ヲ黑塗トナス

二 鱈 重

數 量
形 狀
下 地
塗

一
長手(被蓋)前項曲線研究ニ依ル
堅地
全部ヲ黑塗トナス

三、煙 草 入

數 量
形 狀
下 地

一
獨樂形 前項曲線研究ニ依ルモノニシテ底部ヲ挽曲ゲトシテ箱ヲ形成シ二面側ヲ延長シテ足トナス
堅地

塗及摸樣
四茶
數
形狀
下地
彫刻、摸樣、塗

塗立トナシ帶摸樣ヲ施シタリ

二十

丸形(被蓋付)

堅地

(摸樣)

西瓜紋樣、唐獅子、唐もろこし紋樣、鶴龜、孔雀、

柘榴、菊、兜、万年青、柿、牡丹、果物籠、松竹梅、

鼓、鶴、寶船、蔓、葡萄ニ栗鼠、線摸樣、風景等

(彫刻)

何レモ各種ノ丸刀ヲ用ヒテ線彫リトナシ摸樣以外ノ地全体ヲ網彫リト

ナシタルモノモアリ

(塗裝)

摸樣及彫リノ如何ニヨリ各々其ノ塗裝ヲ異ニシ各種溜塗、色研出、春慶

塗、スブレー塗等前項紀州彫リ研究ニヨリ茶櫃トシテ適合セル結果ヲ

得ルコトニ努メ茲ニ紀州彫漆器ノ創作ヲ得ルト同時ニ其ノ手法ノ割合

ニ簡易ナルヲ以テ業者一般ニ製作サレ販路モ亦極メテ擴大サレ良好ナ

ル結果ヲ得タリ

三、特別製作ニ關スル事項

(一) 献上品製作に關スル事項

前年度ヨリ引續キ謹製中ナリシ本縣知事ヨリ各宮殿下へ献上致サルベキ色紙宮及短冊宮十八個ハ昭和九年三月十九日謹製ヲ終ヘタリ(口繪寫真參照)

(二) 記念品製作ニ關スル事項

今樣本縣知事ヨリ記念品トシテ侍從武官へ呈上致サルベキ硯箱一個モ全日謹製ヲ終レリ

四 工藝指導ニ關スル事項

(一) 試作品展覽會ノ開催

イ、主催者 和歌山縣工業試驗場

ロ、目的及趣旨

縣工業試驗場ニ於テ輸出漆器試作品及輸出漆器ノ蒔繪圖案ヲ懸賞募集ナシ之ヲ阪神方面ノ貿易業者及
専門家ノ審査批評ヲ乞ヒ之ガ優良ナルモノト縣工業試驗場ニ於テ試作セル輸出漆器等併セテ展覽會ヲ
開催シ以テ業者ノ覺醒ヲ促スト共ニ之レガ改善ニ資セリ。

ハ、會期及會場

會期 第一回、圖案展覽會昭和九年二月十一日ヨリ五日間

第二回、試作品展覽會昭和九年三月廿六日ヨリ六日間

會場 縣工業試驗場漆器部

二、出品ノ種類及其概要

第一回、蒔繪圖案(應募作品長手盆、楕圓盆)百廿点

第二回、試作品(應募作品及試驗場試作品)百五十点

(二) 講習會及講演會ノ開催

イ、主催者 和歌山縣工業試驗場

ロ、目的及趣旨

縣工業試驗場ニ於テ紀州漆器同業組合後援ノ下ニ輸出漆器蒔繪法ニ關スル基礎的技能ヲ養成セシメ
ンガ爲講習會ヲ開催スル外貿易漆器振興ノ講演會及座談會ヲ開催シ地方業者ニ對シ智識ノ啓發ニ努
メタリ

ハ、講習及講演科目

一、輸出漆器ノ蒔繪法講習

二、貿易漆器振興講演會及座談會

二、會期及會場

會期 講習會 昭和八年十一月一日ヨリ十五日間

講演會及座談會 昭和九年三月廿五日

會場 (講習會) 和歌山縣工業試驗場漆器部

(講演及座談會) 紀州漆器同業組合

ホ、講師

(講習會) 會津若松蒔繪組合幹事 增 山 清

(講演及座談會) 神戸貿易商組合評議員 藤 井 松 太 郎

全 柳 田 美 津 造

大阪大丸第十四部々長 加 藤 新 次 郎

(三) 見 本 ノ 製 作

イ、見 本 製 作 者

縣工業試驗場

紀州漆器同業組合

紀州製傘同業組合

ロ、製作見本ノ品種別及數量

一、漆器

輸取向編縁盆 六種(四十五組)

九〇枚

全フインガーボール 二種

八〇個

全湯曲盆 三種

三〇枚

全挽曲盆 二十八種

三五〇枚

全果物鉢 一種

一〇個

二、日傘

輸取向紙張日傘 三種

六〇〇本

(四) 見本品ノ配布方法及配布先

縣工業試驗場ニ於テ見本品ノ適當ナル輸出先ヲ選定シ縣商品陳列所ノ斡旋ヲ經テ海外商品陳列館ニ發送セシ外組合及當地輸出商ヨリ直接見本配布又ハ内地ニ於ケル取引先ノ輸出商館外人商館ニ托シ海外ニ於ケル一

流大商店へ發送セシメテ其ノ販路ヲ求メタル結果縣商品陳列所或ハ同業組合及當地輸出商人ヲ通ジ徐々ニ取引ヲ見ツ、アリ

五、依頼試驗

事	項	件數	點數
木	地ニ關スル試驗	三七	一〇四
下	地ニ關スル試驗	一五	四六
糝	漆ニ關スル試驗	一一	三五
蒔	繪ニ關スル試驗	一三	七〇
圖	案ニ關スル試驗	一九	五三
其	他	八	一七
計		一〇五	三四五

六、質疑應答

七、實地指導

木地ニ關スル事項	件數	一五〇
下地ニ關スル事項		三六
糝漆ニ關スル事項		二二八
蒔繪ニ關スル事項		五七
圖案ニ關スル事項		六六
其他		一五六
計		六九三
事項	件數	
木地ニ關スル事項		二八
下地ニ關スル事項		二一

八、調査

木地ニ關スル事項	件數	一五
下地ニ關スル事項		二二三
糝漆ニ關スル事項		二八
蒔繪ニ關スル事項		三一
圖案ニ關スル事項		一二
設備ニ關スル事項		三二
計		一二五
其他		八
圖案ニ關スル事項		二五
蒔繪ニ關スル事項		二三
糝漆ニ關スル事項		二〇
事項	件數	

紀州漆器ニ於ケル中小工業不況状態ニ關スル事項 一〇

其 他 七

計 一五八

九、出品並ニ展示其他

一、第九回大阪工藝展出品 當部ノ試作品 十点

一、第一回商工省輸出向工藝品展覽會出品 當部試作品 十五点

一、海外工藝品圖案集展示 一回(六日間)

一、圖案集配布 商工省囑託和田三造氏調査ニ係ル海外工藝品圖集七十五葉 五十部(一部三十二枚)

一、座談會 漆器振興ニ關シ出席者 二回 三十六名

一、輸出漆器振興委員會

輸出漆器振興ニ關シ出席者 二十五名

十、機械器具使用許可

品目	回数
象嵌機	二五
轆轤機	四
石版印刷機	三
吹霧塗裝機	五
板物用小道具	一五
下地用小道具	七
糝漆用小道具	一六
蒔繪用小道具	二〇

十一、來場者

一〇八五名

庶務部



Faint, illegible text visible on the right page, possibly bleed-through from the reverse side.

第五章 庶務部

一、文書收發件數

收受
三八五件

發送
一七五件

二、職員出張回数並二日數

職名	區分	管内		管外		合計	
		回数	日數	回数	日數	回数	日數
場長		四三	四四	一六	三八	五九	八二
技師		一八四	一九六	一八	三三	二〇二	二二八
技手		二八	二八	一三	二二	四一	五〇
主事補		二	二	一	一	三	三
助手		一〇	一〇	一	一	一〇	一〇
技工		二	二	一	一	二	二
計		二六九	二八二	四八	九三	三一七	三七五

三、印刷物ノ配布

昭和七年度業務報告

一七二部

四、來 場 者

二六五人

五、現 在 職 員

就職年月日

聯務分掌

職 名

氏 名

昭和五年五月二十六日

場 長

地方商工技師

小泉元正

全

釀 造

全

三田村 豊

昭和五年五月六日

漆 器

全

佐原 貢

昭和四年四月一日

釀 造

兼全
(大阪稅務監督局勤務)

後藤 秀三

昭和七年四月九日

機 織

商工技手

上岡 藤市郎

昭和四年四月一日

染 色

全

瀬沼 隆四郎

全

昭和六年八月三十一日

漆 器

全

阿部 憲

昭和九年五月五日

機 織

全

林 英

昭和五年二月二十一日

染 色

全兼商工助手

松田 好治

昭和七年四月四日

庶務會計

商工主事補

秋月 健三

昭和五年五月十七日

漆 器

商工助手

大垣 清一

昭和八年四月十二日

釀 造

全

吉田 康雄

昭和九年七月二十日印刷
昭和九年七月廿五日發行

發行所

和歌山縣工業試驗場

和歌山市一番丁一番地

印刷所

和歌山市辨財天町五番地
衣奈印刷所

